

座長：日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学講座 田中 彰

新型コロナウイルス感染症の最新の知見と口腔診療との関わり

東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科 寺嶋 毅



【略歴】

- 1988年 慶應義塾大学医学部内科学教室 研修医
- 1990年 社会保険埼玉中央病院内科 医員
- 1992年 慶應義塾大学医学部内科学教室呼吸循環研究室 専修医
- 1995年 カナダ British Columbia 大学医学部に研究留学
- 1997年 東京歯科大学市川総合病院内科 医員
- 2014年 東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授 内科部長

Coronavirus disease-19 (COVID-19: 新型コロナウイルス感染症)は2020年8月下旬の時点で、世界では感染者数2,300万人以上、死者約80万人と猛威を振っている。日本では、感染者数は6万人、死者数1,200人を超えている。3月下旬から急激に患者数が増加し、4月に初めて緊急事態宣言が出された。感染者数は4月にピークを迎えた後、5月には減少、6月には一旦収束した。第1波の時期には医科も歯科も受診控えが見受けられた。感染者数が減った時期に通常の診療に戻るかと思われたが7月より感染者数が再び増え始め、日々多くの感染者数が報告されている状況を見る限り、新型コロナウイルス感染症との戦いは長期になると予想される。

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)がひとの細胞に感染する際に表面のスパイク蛋白は細胞のACE2受容体に結合する。舌をはじめ口腔内の細胞にもACE2受容体は発現しており新型コロナウイルスは感染する。唾液には新型コロナウイルスが多く存在するため、口腔内の検査や処置は感染を周囲に波及させる可能性がある。歯科診療では十分な感染対策を講じながら、新型コロナウイルス感染症が流行する以前と同じアクティビティ、診療や処置への再開を目指して現場で取り組んでいることと思われる。

講演では、感染経路、一般的な予防対策、新型コロナウイルス感染症の症状、画像所見、口腔診療で注意することなどについて、最新の知見、我々が経験した症例、現場での対応などを含め解説する。新たな知見がさらに加わり、検査体制が拡充し、感染対策に必要な資材などが十分に供給されることなどにより、患者さんも医療従事者も安心、安全に診療が行われることに役立てば幸いである。